

生産環境の変化に適応した 農林水産関係試験研究



現状・課題

- 地球温暖化の影響により、農業では栽培適地が変化するリスクに加え、近年は雹害など気象災害が頻発。海域でも磯焼けによる藻場の衰退や養殖魚で夏季の疾病が増加。従来の経験や知見が通用せず、気候変動に対応できる新たな技術開発が必要。
- 農林水産業従事者の減少と高齢化が加速しており、担い手不足が深刻化。作業の省力化や技術の継承が重要な課題。
- 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」等の新たな病害虫に加え、シカ・イノシシ等の野生鳥獣による被害が拡大。これらの防除、被害軽減技術の開発が急務。

取組

気候変動や労働力減少等の生産環境の変化に適応した農林水産関係試験研究を推進

● 気候変動への対策技術開発

気温上昇による高温障害や生産性低下、海洋環境の変化に対応し、安定生産を可能にする技術を開発します。

- ・イチゴの花芽分化防止遅延防止技術の開発
- ・ウメの雹害対策
- ・畜産（牛・鶏・豚）の暑熱対策
- ・藻場造成技術の開発
- ・新たな養殖魚種の開発・探索 等

● AI等を活用したスマート農業技術の開発

深刻な担い手不足を補うため、作業負担を軽減する省力化技術や容易な技術の継承が可能となる技術を確立します。

- ・イチゴ、ミニトマトの省力、高品質化等に資するAIモデルの構築
- ・ドローンを用いた省力的な農薬散布技術の開発
- ・果樹の栽培管理の補助等を目的としたAIの活用技術の開発
- ・スマート農機を導入しやすい果樹省力樹形の開発 等

● 新たな病害虫や野生鳥獣等による被害対策技術の開発

生産基盤を脅かす新たな病害虫や鳥獣害への対策技術を開発します。

- ・「クビアカツヤカミキリ」等病害虫の防除技術の開発
- ・カンキツの鳥害防除技術の開発 等



寄附金の使途

● 農林水産基礎研究

次世代の新品種開発や新品目・新魚種の探索の他、将来の革新的な技術の種（シーズ）を創出するための研究費用

● 農林水産業競争力アップ技術開発事業

栽培管理の高度化や最新の防除技術など、生産現場の課題解決と所得向上に直結する実用技術を開発するための研究費用